

江楼にて感を書す（趙嘏）

独り 江楼に 上れば 思い 渺然たり

月光 水の 如く 水 天に 連なる

同に 来て 月を 翫びし 人は 何処ぞ

風景 依稀として 去年に 似たり

獨上江樓思渺然 月光如水水連天  
同來翫月人何處 風景依稀似去年

解説 川のほとりの高殿に登って月を眺め、亡き人を  
思った詩。

語釈 ※江楼＝川べりの高殿。※渺然＝遥かなさま。は  
てしないこと。※依稀＝彷彿たること。よく似ているさ  
ま。

通釈 ただ一人、江辺の楼に登れば、思いは果てもなく  
ひろがる。月光は水のように澄みわたり、水は天に連なっ  
て流れている。ともに来て月を見て楽しんだ人は、いま  
はどこに行ったのか。風景だけはそっくり去年のままに  
見えるのに。